

## 「平成 22 年度 大学職員情報化研究講習会 ～基礎講習コース～」受講レポート

グループ名：(B-5) UNI

タイトル：「理想の三角関係～もっと知りたい、繋がりたい～」

### 1. 課題認識

今回の研修において、我々は「大学には様々なシステムツールがあるものの、それらの情報は有効に活用されているのか」をテーマに討議を行った。講義で述べられた「情報の有効活用」や「情報は使うほど価値がある」、「教職協働」といったキーワードに着目した際に、我々の所属する大学において、果たして情報は有効活用されているのか、せっかくのリソースが無駄になってないか、という疑問を感じたためである。

現在我々が抱えている課題は、主に(1)情報の公開不足、(2)利用方法の周知不足、(3)情報の伝達不足、(4)伝達スピードの4点である。

#### (1)情報の公開不足

他課のシステムや予定、業務に関する情報共有がなされておらず、当該業務に対応できる者が限られている場合、業務の引継ぎや学生対応がスムーズに行えないといった弊害が生じている。

#### (2)利用方法の周知不足

学生や教職員がポータルサイトなどの情報システムの使い方を知らず、せっかくのツールが利用されていない。

#### (3)情報の伝達不足

情報に無関心な学生が多く、知らせたい情報が学生にきちんと届いていない。

#### (4)伝達スピード

キャンパスがいくつかある大学の場合、キャンパス間で情報伝達にタイムラグがあり、対応が遅れる。

### 2. 討議内容

課題を分析したところ、職員、学生、教員、三者間の情報共有が上手くなされておらず、情報が発信されているものの対象者に届いていない現状や、必要な情報が上手く共有されていないという現状が、浮き彫りになった。

こうした現状を受けて、我々は、職員、学生、教員の三者を ICT 活用によって繋ぐ必要性を感じた。すなわち ICT を活用した「理想の三角関係」の構築によって、前述の課題は解決され、より良い大学づくりができると考えたのである。

### 3. 提案内容

討議を重ねた結果、課題解決の鍵となる「理想の三角関係」構築のために、(1)職員・学生間、(2)職員間、(3)職員・教員間の情報共有について、以下のような具体策を考案した。

#### (1)職員・学生間の情報共有について

##### ①情報の1本化

例えば、必要な情報はすべてポータルサイトに掲載するなど、閲覧場所を1箇所まとめ、掲示内容を重複させないようにする。

##### ②ICT 活用に係る周知及び講習

オリエンテーションや情報リテラシー講習会など、ICT 活用に係る説明の場を設ける。

③無関心な学生の呼び込み

休講情報など学生が必ず見る情報を掲示することや、チラシや学内掲示板で情報の要点のみを知らせ、詳細や申込み手続についてはポータルを利用するなど 2 つを併用することによって、学生の利用機会を増やす。

(2)職員間の情報共有について

①業務の記録

自身の年間業務や日常業務を随時記録し、日頃から業務の引継ぎをスムーズに行えるようにしておく。

②スケジュールの公開

会議や出張の予定など、1 週間の予定を職員間で閲覧可能にする。

③業務分担に係る情報の共有

横のつながりを強化するために、誰がどのような業務を行っているか、各課員の業務分担の情報を共有する。

④共通ルールの設定

誰もが利用しやすくするために、データ管理を行う上での学内共通ルールを定める。

(3)職員・教員間の情報共有について

①投書箱的ツールの設置

システムの中に投書箱のようなツールを設け、教員からの要望を吸い上げる。

②大学の現状の周知

経営面、活動、地域連携などに係る情報を公開し、大学の現状把握に役立てる。

③教育実態の把握

学生による授業評価や、面談結果などの学生情報を共有する。

④意識の共有

様々な情報を公開し、共有することにより、意識の共有ができ、教職協働に繋がる。

これらの方策により、情報共有がスムーズに行われ「理想の三角関係」が作られると、情報の一元化・明確化や、職員からの発信による学生の活動機会の創出、細かいフォローの実現、横のつながりの強化、教員と職員との意識共有が可能となる、といったメリットが生じる。

なお、「理想の三角関係」の維持のためには、PDCA サイクルのうち、特に Check を意識して行うことが求められる。Check すべき事象は、次の 4 点である。

①全学的な利用のための利用率の確認

②研修や情報リテラシー教育等、利用者へのフォローアップ

③アンケート調査などの実施による、利用者からの要望の取り入れ

④定期巡視の実施や管理の徹底による、健全な利用と運営の維持

#### 4. まとめ

ICT を活用した「理想の三角関係」がもたらすものは、単に前述の課題解決にとどまらず、最終的には大学の掲げる目標に全学的に取り組むことが出来るという利点である。

大学は、「理想の三角関係」の構築により、ユニバーサル化に伴う学生の多様化への対応や情報共有によるワンストップサービスの実現、活動機会創出の増加による学生の社会的能力の向上、連携による学士力育成カリキュラムの創造などを、可能にすることができると我々は考える。

以上